



2022年
(令和4年)
夏号
Vol.11

枚方市議会議員

奥野みか

すべての人々が、「今」を輝いて
生きていける社会をつくる

- 奥野みかの活動報告(トピックス)
～みんなが安心して暮らせるまちのために～
- 奥野みかの視点
(6月定例会議会)
～市民とともに考える
姿勢をもって、丁寧に、
民主的な合意形成を～
- 奥野みかの一般質問



奥野みかの活動報告(トピックス) ～みんなが安心して暮らせるまちのために～

内視鏡手術支援ロボット「ダ・ヴィンチ Xi」導入



7月2日、市立ひらかた病院に導入される内視鏡手術支援ロボット「ダ・ヴィンチ Xi」の内覧会に参加しました。

腹腔鏡手術は、患者のお腹にあけた小さな穴から手術器具を取り付けた内視鏡を挿入して行う手術ですが、手術の傷跡が小さくなり、術後の回復が早くなります。内視鏡手術支援ロボット「ダ・ヴィンチ Xi」は、遠隔操作ができるロボットアームで、医師の手術をサポートし、手術の安全性や患者の心身の負担軽減をさらに向上させるものだということです。導入経費は約3億円。7月中旬から消化器外科手術(胃・大腸)で開始し、準備ができ次第、婦人科・泌尿器科でも実施、呼吸器外科も準備中で、2023年からは年間100例を目標にするとの報告がありました。地域医療支援病院でもある市立ひらかた病院には、患者にとって安全で負担の少ない手術を行っていただくことを願います。

ミュージック・シェアリング 音楽フェスティバル開催

6月18日、総合文化芸術センターにて市制施行75周年事業の「ミュージック・シェアリングフェスティバル」が開催されました。

枚方市出身の世界的ヴァイオリニスト五嶋みどりさんも、むらの高等支援学校等の生徒たちと一緒に演奏されていましたが、ごく自然に同じ舞台に立っておられました。生徒たちも、心で感じたことを素直に表現してくれているようで、とても素敵な合同コンサート、夢の共演でした。

五嶋みどりさんが理事長を務め、世界に本物の音楽を届ける活動を行っている「認定NPO法人ミュージック・シェアリング」と枚方市は、多くの市民に音楽鑑賞や体験の機会を提供するため、昨年11月29日、連携協定を締結しています。



奥野みかの視点(6月定例会議会) ～市民とともに考える姿勢をもって、丁寧に、民主的な合意形成を～

一般会計の補正予算審議では、新型コロナウイルス感染症への対応等で約25.8億円、国のコロナ禍における原油価格・物価高騰等総合緊急対策等で約18.7億円(いずれも増額)が提案され、今年度当初1,490億であった予算額は1,585億円に増大しています。住民税均等割世帯への給付金の支給や水道料金の基本料金等4か月分の減免など、市独自の取り組みが予算化されました。社会・経済状況を踏まえた的確な政策判断ができていくのか、引き続き、確認していきます。



枚方市駅周辺再整備事業 市民が見えていますか？

⑤街区での新庁舎案は、大阪府の土地を枚方市が買収することが既成事実とされ、本市の利益や議論・合意形成が軽視されているのではないのでしょうか。未来に向けて説明責任を果たせ、将来にツケを残さない選択肢を、市民とともに民主的に検討すべきです。

上図は、民間提案を受ける際に示された「④⑤街区のまちづくりの考え方(骨子案)」です。民間提案を踏まえ、市は、⑤街区の行政エリアに「市庁舎・アリーナ合築案」を示しました。
(※裏面に、定例会議会の質疑のポイントを掲載)



奥野みか ホームページ・フェイスブック

～皆さまのご意見・ご要望もお聞かせください～

<https://okuno-mika.com>

<https://www.facebook.com/mika.okuno.338>



奥野みか

6月定例会議会 一般質問

ポイント／急傾斜地の崩壊による災害から命を守るため、府に対策工事の要請を行うべき。

(質問：急傾斜地の崩壊による土砂災害への対応について)

昨年5月の大雨で崩壊した伊加賀北町の急傾斜地では、府土木事務所の助言を受け、法面所有者が斜面下部に擁壁を設置しましたが、依然として土がむき出しの斜面上部から落石もあったことから、防護シートが再び設置されました。



災害から住民の命を守るため、市として府に対策工事は要請しないのか尋ねると、「地域の同意や受益者負担などが整い、急傾斜地崩壊危険区域の指定がなされた際にできるものと考えている。」との答弁でした。

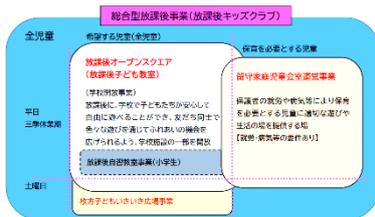
ということは、大阪府が「急傾斜地崩壊危険区域」の指定をするまでは、地元自治体である枚方市としては「何も取り組まない」ということになり、住民の安全に責任を持つ自治体としては全く無責任です。

枚方丘陵に点在する崩壊の危険がある急傾斜地で、実際に崩壊が起こったわけですから、急傾斜地の崩壊による災害から命を守るため、市として適切な役割を果たしていただくよう、改めて、強く要望しました。

ポイント／児童の放課後対策は、校庭や図書室など「居る場所」さえあればいいというものでない。すべての児童の豊かな放課後の実現のための取組を。

(質問：総合型放課後事業実施プランについて)

来年度からの総合型放課後事業は「児童の自主性を尊重した見守り型の自由な遊びの場として、専任のスタッフを配置し余裕教室や特別教室等を活用しながら実施するものであり、今年度実施している校庭開放の夏休みまでの参加人数や学校ごとの課題等を検証し、取り組みを進めていく。」との答弁がありました。専任スタッフには、児童が自発性、自主性を発揮することができるような働きかけが求められます。「見守り型の自由な遊びの場」と称して、学校を開放して勝手に遊ばせておけばいいというような取り組みは、子どものための「放課後事業」等と言えるものでは決してない、と意見しました。



ポイント／子ども・若者の「困難」が多様に。子ども・若者の声を、行政はどこでどう受け止めるのか。

(質問：子ども・若者育成支援推進法に基づく取組について)

ヤングケアラーや孤独・孤立の相談支援、奨学金返還の問題、18歳成人等々、15歳以上概ね30代という子ども・若者の「困難」は、より深刻に、より多様になってきています。そのような社会状況下で策定する次期計画なので、基本的な考え方や枠組みを抜本的に再検討する場や調査が必要ではないかと意見しました。

ポイント／マンションの現況や管理状況の実態から見える課題を踏まえ、管理適正化推進計画の策定を。

(質問：マンション管理の適正化について)

実態調査により見える化される様々なマンションリスクを踏まえ、管理適正化に関する目標の設定、管理組合による自律的なマンション管理や管理不適正マンションの解消などに関する技術支援策の検討など、マンション管理適正化推進計画の策定及び必要な施策の推進にしっかりと取り組むこと、また、枚方市駅周辺再整備基本計画との関係では、マンションの適正管理が大きな政策課題となっている今、貴重な枚方市駅前に広がる枚方市の土地をタワーマンション敷地として売却し、50年後の課題の種をまくようなことをしてはならないと指摘しました。



ポイント／老朽化し、廃止された大ホール棟を解体撤去して広場を確保し、大規模災害への備えを。

(質問：枚方市駅周辺再整備事業について)

市は6月議会で、現在、北河内府民センター等がある街区に、突如として市の新庁舎と5,000人を収容するアリーナ（プロスポーツやライブ公演などが行われる施設）の合築案を示しました。これまでの構想・計画・市長公約・所信表明・市政運営方針で一言もふれられたことのない公共施設の整備案です。他の議員から「寝耳に水」という指摘もありましたが、民間事業者の提案に基づき、唐突にこのような大規模公共施設を新庁舎と合築することを決め、整備を進めるなど、とても市民や議会の理解を得られるものではありません。行政施策の進め方の基本に立ち返り、市民を置き去りにせず、ともに考える姿勢をもって、丁寧に民主的な合意形成を行っていただきたいと意見しました。

また、今、枚方市民にとって、④⑤街区の公共用地を活用して整備しなければならない、何よりも重要な公共課題は、大規模災害に「備える」ことであり、そのためには、落下物防護ネットを大きな壁面3面に張り巡らしていまだに存続させている旧市民会館の大ホール棟など、老朽化して廃止された公共施設を一刻も早く解体・撤去して、活用可能な広い空間（広場）を確保することだと指摘しました。

